

立命館宇治中学校・高等学校

地域から学び、世界で生かす

～ AIP Pre-CAS 土曜講座から IBDP CAS 活動へ～

IB 教育部

2010 年 4 月、立命館宇治高等学校で国際バカロレアディプロマ・プログラム（IBDP）が正式にスタートしたと同時に、SEL コース AIP（アドヴァンスド・イマージョン・プログラム）が開講しました。AIP プログラムは、高等学校 1 年生のための IBDP 準備プログラムです。現在、15 名の生徒が AIP プログラムに所属しており、将来 IBDP に進むための授業を受けています。

IBDP の生徒は、授業以外に、CAS 活動（創造性、活動、奉仕）を行う必要があります。CAS とは IBDP の特徴ともいえる活動です。生徒たちは CAS 活動を通じて、新たな挑戦に取り組み、様々な場面において計画し実行する、そして活動を振り返るという習慣を身につけます。また、CAS は IB 教育の理念でもある「活動の中で貢献する意義を見出し、バランスのとれた、思いやりのある地球人を育成する」という考えを反映しています。IB では、CAS 活動を行うことで生徒たちが広い視野を持ち、常に学ぶ姿勢を失わず、探究心や自立心を持ち続けることができるよう促しています。

高等学校 2 年から開始する CAS ですが、ボランティア活動や課外活動など、いきなり活動内容を考え実行することはかなり難しいことです。そのため、AIP プログラムでは、月 2 ～ 3 回の Pre-CAS 土曜講座を行っています。Pre-CAS 土曜講座は、2 年生から開始する CAS 活動をスムーズに行うための準備講座で、今年から 1 年生を対象に土曜日に開講しました。

Pre-CAS は、宇治観光ボランティアガイドと演劇の 2 つの講座があります。

宇治観光ボランティアガイド講座は、宇治観光ボランティアガイドクラブ事務局長の加納誠三先生が講師を務め、生徒たちに宇治の歴史や魅力について教えます。主に、世界文化遺産である宇治上神社を題材にし、生徒たちが実際に神社を訪問し、神社の歴史について研究しました。神社について研究した後、何度もプレゼンテーションや勉強会を開き、宇治上神社について更に理解を深めていきました。そして、最終的には、一般の観光客に宇治上神社を観光案内する実習を行

いました。宇治観光ボランティアガイド講座を通して、宇治の歴史や文化について再認識するだけではなく、人前で発表する能力、人との接し方、そして、自分自身で集めた情報をまとめ、他人に分かりやすく説明する方法を身に付けることができました。将来、CAS 活動をする際は、宇治観光ボランティアガイド講座で身に付けた能力を生かし、地域だけではなく世界を視野に入れた活動ができると信じています。



宇治観光ボランティアガイドクラブ事務局長 加納誠三先生から
宇治上神社について講義を受ける生徒たち



講座最後の実習で宇治上神社を一般の観光客に案内する生徒たち